

ISSN 1882-9511

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

愛知学院大学薬学会誌

Volume 10
December 2017

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第10巻 2017年12月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

Volume 10 December 2017

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

サッカーと大学院博士課程

薬学研究科長 安池 修之

2018年のサッカー ロシア W 杯のアジア最終予選も佳境を迎えている。私は静岡出身で古い話とになってしまうが「清水の三羽がらす」が高校のグラウンドでサッカーの試合をするのを校舎の上から眺めていた。そんなことからサッカーに興味があり 1993年5月14日のJリーグ開幕戦は国立競技場で観戦をした。2005年、私は一年間ミュンヘン大化学科に留学した。研究は留学先の研究内容についていくのが精一杯であった。一方で留学期間中に52回の日曜日があり、どのように楽しむかが難題となった。ドイツは「閉店法」があるために週末のお店のほとんどが閉まっている。従って家でおとなしくするかアウトドアするしか方法がなくなる。試行錯誤の結果、プロサッカーチームのFc Bayern Münchenの練習場に行くことに辿り着いた。これはお金もかからず、のんびりと長い時間を過ごすことができた。その当事はオリバー・カーン、ミヒャエル・バラック、ロケ・サンタ・クルスが所属し、そのシュート練習などでは各選手のボールを蹴る音だけでも度肝を抜かれた。若手選手の一人だったバステアン・シュヴァインシュタイガーと気軽に写真を一緒に撮ったりして遊んでいたが、2014年のW杯優勝メンバーになるなど予想もつかなかった。

「量的拡大をもって質的向上を図る」といった言葉がある。マイナーなスポーツでよく用いられる言葉であるが競技人口を増やすことで結果としてそのレベルを上げようというものである。日本のサッカーもプロ選手だけでなく小さな子供たちの競技人口が増えた。加えて、指導者・クラブ関係者・ファン・地域が力を合わせて支援することで質的な向上が図られW杯常連国になるとともにここまで人気のあるスポーツに発展してきているように感じられる。

大学院4年制博士課程は6年制薬学部を基礎とする大学院で、臨床的課題を対象とする研究領域を中心とした高度な専門性や優れた研究能力を有する薬剤師等の養成に重点をおいた教育研究を行うことが求められている。これは臨床系教員や基礎系教員をはじめ皆が力を合わせて大学院生の教育にあたることが大切となる。研究の舞台は世界との闘いでもある。大学院生とともに切磋琢磨し世界に情報発信できることを願っている。学生にとって魅力ある大学院を示しながら多くの大学院生が入学することで愛知学院大学大学院薬学研究科の更なる発展を期待する次第です。

終わりにあたり、記念すべき愛知学院大学薬学会誌第10巻の発刊、誠におめでとうございます。節目の巻を迎え、今後益々の薬学会誌の充実と発展を祈念いたします。

— 目 次 —

巻頭言

サッカーと大学院博士課程
薬学研究科長 安池 修之

総説 1

Synaptic transmission in the nucleus tractus solitarius and modes of action of central antitussives 1
Yoshiaki Ohi and Akira Haji

総説 2

銅触媒下での 5 位にヘテロ原子を含む 1,4,5-三置換-1,2,3-トリアゾール誘導体の合成と化学反応性 16
山田 瑞希

学会報告

潰瘍性大腸炎モデルマウス病態増悪因子としての *Clostridium* sp. 22
久綱 僚、富田 純子、森田 雄二、河村 好章
位置選択的[3+2]環化付加反応を利用した 5-スチバノトリアゾールの合成とその反応性 24
山田 瑞希、松村 実生、斎藤 宏貴、内田 裕希、川幡 正俊、山口 健太郎、
角澤 直紀、安池 修之
アミロイドβが誘導する PC12 細胞死に対するサンズコン由来 RXR アゴニストの抑制作用 26
王 蔚、中島 健一、平居 貴生、井上 誠
ヒトから分離された稀な腸肝在位 *Helicobacter* 属菌種について 28
加藤 信都、富田 純子、森田 雄二、河村 好章

医療生命薬学研究所

平成 29 年度 医療生命薬学研究所組織 29
平成 29 年度 医療生命薬学助成（プロジェクト提案型研究） 30

平成 28 年度 医療生命薬学助成研究概要

カドミウム長期曝露による鉄輸送関連因子の発現および肝臓中铁濃度の変動 34
徳本 真紀
新奇なヘテロアセン化合物の一般合成法開発と物性解明 36
松村 実生
成績データ解析結果を基盤とする改善策の有効性の検証 38
波多野 紀行、武田 良文、茂木 眞希雄
アンチモンやビスマスを中心とする有機-無機ハイブリッド分子の抗腫瘍活性 40
安池 修之、小幡 徹、松村 実生、(鈴木 由香)

学会等開催助成報告

第34回シクロデキストリンシンポジウム	44
小川 法子	

国際交流委員会活動報告

韓国薬学研修引率報告	李 辰竜	48
	堺 陽子	51
韓国薬学研修報告	鈴木 里菜	54
	恩田 了綺	56
	倉本 雅也	58
	坂川 彰悟	60

FD 委員会活動報告

平成28年度 薬学部 FD 委員会活動報告	62
古野 忠秀 (文責)、河村 好章、樫 彰、安池 修之、脇屋 義文、森田 雄二、 浦野公彦、小川 法子、井上 誠 (委員長)	

卒業研究発表会優秀賞 受賞者一覧	72
------------------	----

講座紹介・業績リスト	75
------------	----

平成28年度大学院薬学研究科 博士論文要旨	127
-----------------------	-----

薬学部医療薬学科 八期生 卒業論文課題一覧	132
-----------------------	-----

評議員会便り	137
--------	-----

投稿規程	153
------	-----

薬学会会則	155
-------	-----

名誉会員リスト	158
---------	-----

協賛

編集後記